

連携医療機関のご紹介

うちだ内科医院 院長 内田 守昭 先生

平成23年4月に開院した当院は今年で11年目ですが、その間東日本大震災、コロナ禍、ウクライナ侵攻を経て、診療内容の変更を余儀なくされてきました。

スタッフ不足の影響で内視鏡業務を休止している事や、発熱患者への対応を限定している事の影響で、あがの市民病院の諸先生方にはご迷惑をおかけし誠に申し訳なく思っております。ことに患者紹介の機会が多い消化器病センターの松澤先生、田中先生には常々深謝しております。今後もあがの市民病院と連携させていただき、微力ながらも地域医療に貢献出来るよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。



あがの八雲苑 高野 友丈 施設長

当施設運営のため開設時から協力医療機関として大変お世話になっており、令和3年度には、施設利用者延べ人数98名の方々が診療・治療などをお願いしておりました。

例年、利用者の皆様方の基礎疾患治療や新たに見つかった病気への対応に感謝申し上げます。新型コロナウイルスが変異し、オミクロン株の異種BA.5が主流となって感染増加しています。感染陽性者となっても、濃厚接触者となっても、入院隔離でなく自宅隔離で療養することから家庭内感染がおき医療や福祉でも働く担い手不足がおきています。BA.5より強力と言われておりますBA.2.75が日本に上陸しておりますので、感染防護を今一度見直す対策が必要と感じております。



あがの市民病院 スワンだより



新型コロナワクチン接種について

接種券が届いている人で、まだ接種を受けていない人は、早めに予約してください。

ワクチン接種で来院する際は下記のご用意をお願いします。

- ・接種券
 - ・本人確認書類
 - ・予診票
- 3点が必要です



- ・予診票の記入漏れがないように自宅であらかじめ記入をお願いします。
- ・肩を出しやすい服装でお越しください
- ・会場が狭いため、手荷物は少なめでお願いします。

※主治医へのワクチン接種相談はお電話ではお答えできません。
お手数ですが、外来診察時に主治医へご確認下さい。

※当院では予約は受け付けていません。

接種予約は阿賀野市専用予約コールセンター等、市の窓口となります。

小児5歳～11歳の方の新型コロナワクチン

当院へ直接予約となります

受診歴ありの方：

月曜日～金曜日14:30～16:30
(予約専用電話0250-62-2900)

受診歴なしの方：

月曜日～金曜日8:30～16:30
(新患者登録が必要なため窓口での予約)

※ただし月～金が祝日等休日の場合は受付不可

接種会場のご案内

番号札順に、予約日時確認・本人確認・予診票確認をします。受付後、講堂前の椅子でお待ちいただきます。



1階受付(階段前)



2階受付(売店前)



医師の問診(2階講堂)

病気治療中の方は事前に主治医へ接種可否を確認しておいてください。

予約時間に遅れないよう
ご協力お願い致します



健康観察(2階講堂)

接種後15分体調に異常がないか確認し、帰宅していただきます。体調がすぐれない方は、近くのスタッフへお声がけください。



接種室(2階講堂)

看護師がワクチン接種を行います。肩をすぐ出せるようにして、お待ちください。



あがの市民病院

〒959-2093

新潟県阿賀野市岡山町13-23 代表☎0250(62)2780

Eメールアドレス syomu@aganocity-hp.com

ホームページアドレス <http://www.city.agano.niigata.jp>



あがの市民病院

防災訓練を実施しました！

当院では年2回防災訓練を実施しておりますが、7月1日（金）に阿賀野市消防本部立会いのもと、上期防災訓練を行いました。「本院は夜間に栄養科前で出火、五頭の里は夜間に洗濯乾燥室から出火し、それぞれ初期消火を試みるが、火の勢いが強く失敗。非常放送およびサイレンを作動し避難を開始する」というシナリオで約60名のスタッフが参加し、本番さながらの雰囲気で行われました。

毎年、防災訓練前にはエアストレッチャー講習会を開催し、新採用者等を中心にエアストレッチャーの使い方を学んでいます。訓練当日はスムーズに患者役を搬送することが出来ましたが、5階から1階まで階段での往復搬送では体力勝負であることを痛感させられました。

また、訓練終了後は消防本部の方から指導を受けながら消火器による消火訓練を行いました。訓練時のサイレンなどで、近隣住民の方には毎度ご迷惑をおかけいたしますが、命を守るための大切な訓練ですので、今後ともご理解・ご協力をよろしくお願い致します。



さて非常口マークをご存知ですか？ドアに向かって人が走っていくようなマークの緑色の照明看板です。

では院内のどこについているか見たことはありますか？

緑色の照明は「避難口誘導灯」と言います。「ここは避難口です」と避難口そのものを意味します。白い照明は「通路誘導灯」と言います。「矢印の方向に進むと非常口があるよ」という意味、すなわち避難経路を意味しています。照明の意味は、どの施設でも同じです。

外出先で少し目線を上げて見つけてみてください。



通路誘導灯



避難口誘導灯



院長のつぶやき

全国で甚大な各種災害が見られています。不測の事態に対応できるよう日々の心構えと準備をしておきましょう。マニュアルを作成しそれに沿った行動をすることは基本で大切なことですが、実際の現場では、臨機応変に「考え行動できる」医療人を目指します。



令和4年6月15日に五頭の里で大運動会を開催しました。競技は大玉送り・つかみ取りゲーム・職員の車椅子リレーを行いました。



応援合戦では、利用者様と職員と一緒に大きな声で応援しました。運動した後のおやつではアイスクリームと飲み物はサイダーかカルピスを選んでいただき、利用者様が笑顔で「美味しいね」ととても喜んでいました。



コロナ禍ということで、ご家族様には参加して頂けませんでした。記念撮影した写真を送らせていただきました。終始笑顔の絶えない楽しい運動会となりました。

学会で優秀演題賞を受賞しました！

リハビリテーション科 理学療法士 曾田健介さんが「第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 甲信越支部学術集会」で優秀演題賞を受賞しました。学会の内容を曾田さんに聞いてみました。



2022年6月18日に新潟大学病院にある医療人育成センターで行われた「第7回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 甲信越支部学術集会」に参加してきました。学術集会のテーマは「みんなで支える呼吸ケア診療」でした。

肺の病気として「慢性閉塞性肺疾患(COPD)」や「誤嚥性肺炎」などが有名ですが、これらの呼吸器疾患に対して医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、私たちリハビリ職など多職種で連携し、患者様にみんなで関わることが大切です。この度、私は長期間の喫煙が原因で生じる「COPD」の患者様に対する治療や患者教育において、多職種で関わることの重要性について発表してきました。COPDとは肺胞という酸素と二酸化炭素を交換する組織が破壊されてしまう疾患で、息切れしやすくなり日常生活を送るうえで多くの支障をきたします。そのため、患者様ご家族様のご協力や様々な医療スタッフの連携が必要となります。現在、診断されていないCOPD患者が多くいると言われており、今後一層「みんなで支える呼吸ケア診療」が重要になると考えています。



病院見学・1日看護体験

看護学生は先輩職員との交流、高校生は看護師のユニフォームを着て見学してもらいました。

<学生受け入れ>

8月3日：新潟県厚生連佐渡看護専門学校の3年生3名

8月4日：新潟県内の高校3年生3名



写真は院内見学後、佐渡看護学校卒の当院職員と看護学生とのワンシーンです。